



## 四体の木像(上)

〔新年を迎えて①〕

「書き初め」、私にと  
つて今年最初のこの原  
稿が書き初めのような  
ものである。



サビエル生誕五百年  
藤屋侃士  
(下松市幸ヶ丘)

279

実は昨年の秋、ばく然とではあるが、今年最初の原稿に書くことを決めていた。豊後(今の大分県)の旧家の蔵で見つかったといわれ、江戸時代のイエス・キリスト、聖母マリア、司祭、修道者とおもわれる四体の木彫りの像についてである。昨年秋、知人からこの木像を譲り受けた。

像の高さはどれも三十五センチ前後、今の大分県別府市周辺の旧家の蔵にあつたという以外何もわからぬ。古美術関係者から譲り受けた

ア・キリスト、聖母マリア、司祭、修道者とおもわれる四体の木彫りの像についてである。江戸時代のイエス・キリスト、聖母マリア、司祭、修道者とおもわれる四体の木彫りの像についてである。昨年秋、知人からこの木像を譲り受けた。

宗麟は一五八七年に亡くなるが、この年に豊臣秀吉はバテレン(外国人宣教師)追放令を出す。そして一六一四年の徳川家康のキリスト教禁止令と統一、日本キリスト教の受難、迫害の時代が始まる。

なぜ譲り受けたかといえ、私はこの像に日本のかつての教会の歴史を感じたからである。

一五四九年、フラン

シスコ・サビエルによつて伝えられたキリスト教。サビエルは二年後の一五五年に日本を離れるが、その直前に豊後を訪れ、大友義鎮(よしげ)に会っている。彼はのちに洗礼を受け、キリスト教文化が栄えた。

宗麟は一五八七年に亡くなるが、この年に豊臣秀吉はバテレン(外国人宣教師)追放令を出す。そして一六一四年の徳川家康のキリスト教禁止令と統一、日本キリスト教の受難、迫害の時代が始まる。

大分のキリスト教徒は、日本のかつての教会の歴史を感じたからである。

勝手な想像だが、私は価値のあるもので手元に届いた。

域を出ず、公に書くべきことは何もない。

我が家を訪れ、像を見た友人の反応もさまざまである。「TV番組のなんでも鑑定団に出しては」という人もいる。偽物か、本物かを問うようなものでもなく、相対評価すべきものでもない。

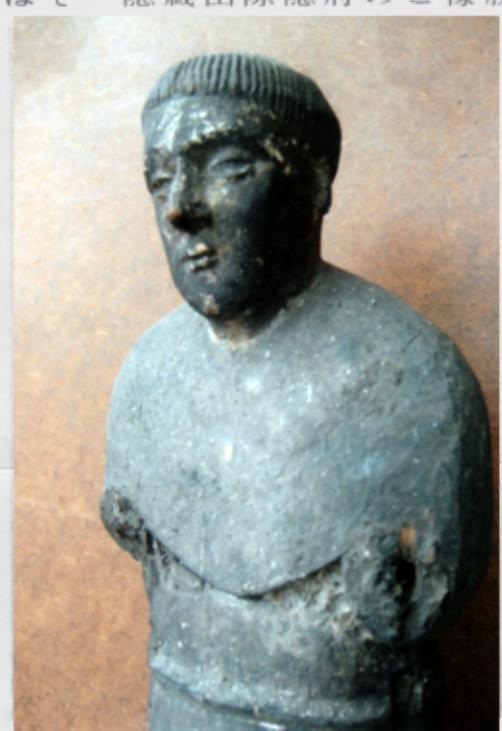
この像の前で祈る時、豊後で生まれ、迫害の歴史の中でローマで司祭となつて帰国し、あらゆる拷問でも転ぶことなく殉教したペトロ岐部神父(一六三九年、五十二歳で死去)を思い浮かべる。

生き方とその価値観。この像の価値も、持つ人の価値観で決まるのだろう。

しかし、いざ書くとなるとすべてが想像の範囲に収まらない。

大分のカトリック教会には、隠れて信仰を守つた。大分の湯布院などには当時の遺産がある。

長崎のキリスト教徒も、じようにへき地に逃れ、隠れて信仰を守つた。大分の湯布院などには当時の遺産がある。



頭に当時の聖職者の特徴がある

私の勝